

雨



からはじめる

【い (サンズイ)】の本

『雪がとけて 川となって 山を下り 谷を走る 野を横ぎり 畑うるおし 呼びかけるよ 私に』
おなじみ「おお牧場はみどり」の歌詞です。今の時期の日本では雪でなく雨ですが、天から降った水が地を潤す点では雪も雨も大切な自然の恵みといえます。長雨で気鬱になりがちな時期ですが、ときには無心になって雨を眺めつつ、読書で心を潤してみてもいいでしょうか。

雨

【雨】地上から空に昇った水は、雨になって帰ってくる。

「雨の名前」高橋順子／文 佐藤秀明／写真 小学館 2001.6

「五月雨」は陰暦5月の長雨、つまり梅雨のこと。和歌や物語では乱れた濡れ髪を「さみだれ髪」と表現したのだとか。梅雨を表す言葉だけでも「青梅雨」「男梅雨」「荒梅雨」などさまざま。雨の多い日本では、雨に関する言葉も豊富で、降り方やその時期の花、その時候の行事なども織り込まれており、季語として使われることも多い。添えられた写真もしっとりした風情で、雨音や匂いまで伝わってくるよう。

長い梅雨の間、晴れの日を待ち望みつつも、合間に挿入された著者の短文で（緊張の）「糸が切れたところを雨の糸がやさしくつないでいる、そんなふうに放心している午後」とあるように、ときには雨越しの柔らかに水気を含んだ景色を味わってみるのもよいかもしれない。

泳

【泳】泳ぐことも生きることも前へ進むこと。

「闇を泳ぐ — 全盲スイマー、自分を超越して世界に挑む。 — 」

木村敬一／著 ミライカナイ 2021.8

東京パラリンピックで、出場4大会目にして悲願の金メダルを得た木村敬一選手。2歳で失明、6歳で寄宿舍生活に入り、中学高校では単身上京。高校時代は深夜に寮を脱走するのが密かな楽しみで、白杖でラーメン店まで遠征したこともあった。一般枠で大学を受験し日大へ進学。リオパラリンピックの際は睡眠障害に悩まされ、金メダルに手が届かなかったものの、思い切って拠点をアメリカに移し、語学学校に通いながらプロコーチについてトレーニングに励んだ。見えない分「人と話す」ことに力を注ぎ、そして、いつも傍らには彼を支える人々がいた。

根っからの負けず嫌いで、自然体で前を向いて突き進む木村選手の姿は、「闇を泳ぐ」というタイトルにもかかわらず、いつも光の方向を向いているように見える。

●【泳】の本、もう一冊

「バタフライ 17歳のシリア難民少女がリオ五輪で泳ぐまで」
ユスラ・マルディニ／著 朝日新聞出版 2019.7

酒

【酒】これもまた水と大地の恵み。

「ひとり酒の時間イイネ!」東海林さだお／著 大和書房（だいわ文庫） 2020.7

「丸かじり」シリーズでおなじみ、東海林さだお氏による「どうやったら一人酒を楽しめるか」がお題の本書。二十代から取り組んできたというから、もはやライフワークと言えるかもしれない。立ち飲み屋で西部劇のジョン・ウェインを気取ってみたり、「ティファニーで朝食を」ならぬ「ファミレスで晩酌を」を強行してみたり。どこで、どんな風に飲み食いするのか、新たなチャレンジやこだわりを余すところなくアツク語ってくれる。ビールの冷やし方と飲み方、特に枝豆の食べ方を微に入り細に入り分析してくれるページの多いこと。つい自分も飲んで食べて検証したくなることうけあい。

●【酒】の本、もう一冊

「酒が語る日本史」和歌森太郎／著 河出書房新社（河出文庫） 2013.2

海

【海】水族館、それは陸上の海。

「水族館ガール[1]」木宮条太郎／著 実業之日本社（実業之日本社文庫）2014.6 2014.6

「あのさ、水族館の職員として、働いてきてほしいんだけど。」

市の観光事業課勤務3年目で、突然に水族館「アクアパーク」への出向を言い渡された由香。戸惑いながら向かった先には超不愛想な先輩の梶。初対面から「無い無い尽くし」「悪いが、今、素人に割く時間は誰にも無い」言い渡されたのは双眼鏡片手にひたすらイルカを見ること。がむしゅらに目の前の仕事に没頭し、魚の三枚おろしも手慣れてきた頃、一頭のイルカに異変が起き、衝撃を受ける。

怒られ失敗を繰り返して「イルカ並み」と言われつつ、ベテランの同僚たちから刺激され、仕事の裏側も学んでトレーナーとしても成長を遂げていく由香。そんな中、梶との関係も少しずつ変化していく。そして出向期限が迫る頃、水族館という一見華やかな職場の、答えの出ない矛盾に気づきつつも由香が選んだ道は…。

いかがでしたでしょうか？あなたの心を潤す一冊が見つかりますように。

令和4年6月

編集・発行：さいたま市立与野図書館（さいたま市中央区下落合5-11-11）

TEL 048-853-7816 FAX 048-857-1946